

8 新潟大学医歯学総合病院高次救命災害治療センターに入院した自殺企図患者の実態調査

井桁 裕文・鈴木雄太郎・茂木 崇治
本多 忠幸*・遠藤 裕*

新潟大学医歯学総合病院精神科
同 高次救命災害治療センター*

【はじめに】平成23年の新潟県における自殺死亡率は人口10万人対で27.7と、全国ワースト3位であった。現在、新潟県新潟市精神科救急医療システムが稼働しており、自殺企図を含めた急激な精神症状の悪化に対する取り組みが進められているが、充足した環境が整備されているとは言えない。また、新潟大学医歯学総合病院高次救命災害治療センターは平成21年に稼働を開始し、重症な救急患者への対応を日々行っている。その中には自殺企図患者も多く含まれているが、その実情は明らかになっていない。そこで今回我々は、同センターに入院した自殺企図患者の実態調査を行うこととした。

【方法】平成23年1月1日から12月31日の間に同センターへ入院したのはのべ1239人であった。その中で救急部医師から自殺企図と判断されたのは10.3%（のべ127人）であり、その患者の背景についてカルテ調査を行なった。

【結果】

- ① 男女比は男性29%、女性71%であった。
- ② 年齢別の分布は20代28%、30代26%、40代13%、50代10%、10代9%、60代5%、70代5%、80代3%、不明1%であった。
- ③ 重複診断を含む精神科診断は、うつ病39例、境界性パーソナリティ障害15例、パニック障害9例、統合失調症8例、躁うつ病8例、適応障害4例、広汎性発達障害3例、認知症3例、その他4例、診断なし17例、不明20例であった。
- ④ 自殺企図方法は過量服薬71%、服毒17%、縊頸5%、練炭3%、飛び降り2%、焼身1%、割腹1%であった。
- ⑤ 当院入院前の通院先は新潟市内精神科ク

リニック33%、単科精神科病院23%、通院先なし20%、精神科以外11%、当科8%、新潟市外精神科クリニック5%であった。

- ⑥ 入院中当科へコンサルトがあったのは22%であり、退院後の転帰は、通院先の外来59%、当科入院12%、不明11%、他の精神科への紹介7%、当科外来6%、通院先入院4%、死亡1%であった。
- ⑦ 来院時間は9時から17時30%、17時から24時39%、24時から9時26%、不明5%であった。

【考察】当院に自殺企図にて入院した患者のうち、当科通院患者はわずか8%であり、一方で市内外精神科クリニックの通院患者は38%と最も多かった。来院時間の内訳では17時から翌9時までの来院が65%を占め、こうした時間帯では通院先からの情報を得にくい可能性が高いと考えられる。患者情報を共有できるシステムがあれば、このような問題が解決できるかもしれない。また、東京都内の救急告示医療機関を対象としたアンケート調査では、入院せず帰宅となった自殺企図患者の割合は33.8%であった。本院でも同様の例は少なからず存在すると思われるが、本調査は入院に至った症例のみを対象としており、限定的であると考えられる。今後、入院に至らなかった例を含めた前向きな調査をしていきたい。

II. 特別講演

1 抗精神病薬による身体リスク予測

新潟大学医歯学総合病院 准教授

鈴木 雄太郎

2 うつ病の認知療法・認知行動療法

国立精神・神経医療研究センター

認知行動療法センター センター長

大野 裕